

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診 日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
1	北海道	59	男	非正規雇用	無保険	国保↓無保険	2009.12.28	胃癌	1月20日	本州の病院に通院していた経過あり。北海道にいる姉を頼りに2009.12/27、A市にもどり、12/28当院に受診し即入院となる。精査の結果、胃癌、多発肝腫瘍だった。入院後、胃癌穿孔併発し急性増悪し2010.1/20亡くなる。2009.9頃より食欲低下あり、11.12月仕事できず本州の病院に12月初旬受診した経過あり。A市からの出稼ぎで、東京に十数年行きっぱなしの状態です。会社の寮に住みながら、日給月給方式で土木関係の仕事をしていました。その間、保険加入せず健康診断すら受けていなかった。仕事休むとすぐ給料減額になるため、我慢して働いていたという。	会社社長ら受診すすめるも治療費や保険証のこともあり、なかなか受診せず。いよいよ痛みが伴い、東京・T病院受診。入院必要といわれるもA市に帰ることを希望された。T病院は無料低額診療事業をしており、無低の全国大会の分科会で当院のとりくみの発表を聞いたことが縁で、相談あり。12/28初診で生保通報申請。仕事についているときは会社の寮で生活していたため、入院時には住所不定のため、当院住所にて生保申請。	1/20死亡されたが、1/26生保決定。
2	北海道	44	男	自営業	資格書	社保↓国保↓短期証↓資格書	2010.5.7	高度進行胃癌	6月3日	当区内に独居。父親は本州で生活しているが、7年前より連絡とってはず。当区内に叔母が在住。自営業であり、収入は安定せず。本州などでも仕事をしており多忙だった。半年ほど前より腹痛・胃痛・体重減少、1ヶ月前より咳・呼吸困難・嘔吐などあり。自営業で仕事を休むと収入が無くなるため、受診を我慢し仕事を継続。収入が不安定で保険料を払えず資格証となる。お金もなく様子を見ていたが、我慢できなくなり知人に相談。知人が、「A病院(当院)に相談したら何とかしてくれるかもしれない」と教えてくれ、医療福祉課に電話が入り受診。	受診時相談室に入室して頂く。所持金およそ3000円。すぐに無料低額診療制度の手続きを行い、検査を進めたが悪性を思わせる所見があり即入院。その日のうちに生保通報申請。精査の結果、スキルス胃癌が進行し、リンパ節転移、癌性リンパ管症、腹膜炎の診断。すでに、積極的な治療対象ではなく、予後も短い状態。本人は、当院での最期を希望。「若いのにどうして…」などとの思いもあった。	生活保護受給決定し、本人も安心された。入院中は、ご家族も頻りに面会に来られた。病状が進行し、苦痛除去のためにモルヒネ大量点滴投与と大量の酸素投与で小康状態を維持していたが、6月3日夕より血圧低下・徐脈となり、同日夕に死亡。
3	青森	66	男	無職	短期証		1992.3.3	胃癌	10月17日	一人暮らし。義母から引き継いだ土地、家屋に住んでいた。老齢年金月額57,311円、この中から固定資産税、国保料、介護保険料、公共料金を引いた残金で細々と生活をしてきた。生保受給希望せず。2010.9月救急搬送後入院。医師に手術をすすめられるが、お金がないから手術はしないと話し、SW介入し入院費用については無低診があるがとすすめた結果、申請し無低診決定、手術にふみきった。	1992年頃から胃ポリープなど指摘され、当院で治療を受けていたが継続せず。それ以後は下痢などの症状で救急外来に受診されていた。2010年9月黒色便あり救急外来受診、検査した結果、胃癌であることがわかり入院した。	手術後、脳梗塞発症し死亡される。経済的な問題がなければ早期治療され、もう少し長生きされたのでは・・・と思われる。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
4	岩手	67	男	無職	無保険	生保申請中↓生保	2010.10.1	心不全、低栄養、胃癌手術後	11月25日	平成18年3月までA病院に外来通院、その後中断。平成22年5月A病院外来受診、6月2回受診、検査必要も金銭的理由によりその後の予約外来には受診せず、7月26日A病院に救急搬送される。細菌性胸膜炎等の診断にて治療開始。直近ではアルバイトや年金で生計を立てていたが、定年退職後は求職活動をしていた。数年前から車上生活、A病院で生活保護申請しリハビリ目的に当院へ転院。転院後、生活保護決定。	A病院では家族との連絡が取れないため病状説明ができず、生活保護の申請・今後の治療等に対しては本人と相談し手続きを行っていた。転院後、家族が面会に来院し手続きを勝手にされたとA病院に対しての不満が続き、病状説明を行いたいこと伝えるが連絡先は教えてもらえなかった。理解力が不十分な印象あり。病状が悪化し、生保ケアワーカーより家族へ連絡を取り説明するも不満の訴えは強まり、なかなか理解・決定ができないため時間をかけて病状説明を行う。	胸水・浮腫は継続しているが、リハを開始する。最初は意思疎通が可能な状況にあるも腎不全悪化からリハビリ中止、徐々に傾眠傾向がみられる。食事摂取量も減少、もともと低栄養状態でもあり肺炎を併発。家族は人工呼吸器管理を希望したため装着するがその後死亡。
5	宮城	57	女	無職	短期証		2007.12.31	糖尿病、慢性腎不全	10月3日	9/30受診時、短期証は6/30で期限切れ、更新していなかった。10/1受診するも、10/3自宅で死亡。検死扱いとなり、警察からの問い合わせあり。夫と2人暮らし、夫の厚生年金月額15万円。お金がかかるので受診することに、夫はいつもいい顔をしなかった。	死亡の4日前(9/30)相談室に「お金がなくて保険証を更新していない。受診できない」旨、電話があった。7月に透析専門病院へと紹介状をもらったが、お金も保険証もなく受診できていなかった。電話のあと、相談を受け、10/1受診されている。	週明け、一緒に国保課へ行く約束をしたがその前日、自宅で死亡。
6	宮城	54	男	自営業	短期証		2010.4.16	肝硬変、肝不全	6月7日	家業は酒屋だが、道路向かいに酒類を扱うコンビニができてから売り上げ激減。経済的困窮に陥り、妻と離婚。実家にもどり、母と2人暮らし(父は死亡)。保険料滞納、自暴自棄になりアルコール性肝硬変になる。周囲からの受診のすすめも拒否していたが、入院時はすでに末期状態だった。	入院後、無料低額診療事業、生保受給につないだ。	
7	秋田	59	女	無職	短期証		2010.11.24	乳癌	11月24日	秋田駅近くのトイレで倒れているところを発見され、救急車で当院に搬送された。短期証が交付されていたが、保険料は未納。	救急車で左乳癌と思われる大きなクレーター状の創部あり、ティッシュペーパーで処置されていた。病院に受診するお金もなく、救急の医師へは2週間、ほとんど食事らしい食事はとっていないという。即入となった。	生保申請する意思があったので、早々に保護へ連絡する。1時間後保護職員と面談、生保受理。その後1時間後死亡。財布には1円も入ってなかった。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
8	秋田	57	男	非正規雇用	資格書	資格書↓生保	2009.10.30	肝硬変(アルコール性)	5月22日	吐血のため救急搬送。、食道静脈瘤破裂のためそのまま集中治療室へ。11/2市役所へ連絡入れ、兄夫婦が生保申請に。住民票上の住所の家や土地はすでに他人のものになっており、現住所は友人の仕事場を間借りしていた。	11/2すぐに市役所の調査来院、本人とも話しをする。生命保険があったが保険料を借りて使い込んでおり、今解約しても数千円にしかならない、負債は数10万円あるとのことだった。その後11/19付で生保決定、内視鏡による治療を受けた。	アパートも決定し、H22.1/7退院となる。仕事はせず定期受診を続けていた(2/1、3/8、4/5、4/26)。5/24予約に来なく、その後5/28に兄の妻より連絡あり、5/22に自宅アパートで亡くなっていたのが見つかった。
9	山形	42	男	無職	無保険	解雇後手続きせず	2010.9.1	なし	9月7日	2009.12月体調崩し、勤めていた葬儀会社を無断欠勤することなどで同月解雇。自分の車で寝泊まりしながら、転々とし、2010年4月東京の警察に保護。東京の警察を通じA市の叔父と連絡がつき、叔父にはA市にもどるといったまま音信不通になる。2010年5月家族が捜索願いを出し9/1警察より連絡受け、兄と叔父がむかえにいき、同日当院へ入院となる。本人によると1ヶ月水分のみ摂取。入院後歩行困難、意識レベルにムラがあり、検査するも原因不明。9/6急変、9/7急性心不全のため死亡。	入院当日、当院の医療相談員と兄・叔父が面談し、今後の医療費についてなど、本人の状態安定後に再度相談することになっていた。	
10	福島	61	男	無職	無保険	不明	2010.11.10	食欲不振	不明	当院に入院して間もなく他の医療機関に転院されたため、事例の詳細は不明。また、ご家族も患者の生活状況を詳しく把握されていなかった様子。	10日くらい前から体調が悪かったようで、姉兄に連れられ夜間帯に受診する。ご家族も患者の生活状況を把握しておらず、1ヶ月くらい前には、元気で仕事もしていたそうだが、受診時は無保険であった。翌日、再び外来受診したところ、発熱・呼吸困難で入院となったが、状態が悪化しそのまま他の医療機関に転院となった。	後日、ご家族より亡くなったとの連絡がある。
11	群馬	71	男	非正規雇用	無保険	国保↓無保険	2010.10.7	不明	10月19日	15年前に離婚、代行業に従事(約15年間無保険)。住所不定となり銭湯や事務所に寝泊まりしていた。2010年5月食欲低下、下肢むくみ、体重減少、腹水出現したため友人が受診を強くすすめ、受診となった。当初患者は「保険証がないため病院にかかれない。税金も納めていないのだから生保は受けられない」と受診をためらっていた。また「働かないと食べていけない」と初診当日も代行の仕事へ行こうとした。	患者の友人より「保険証がなく、お金もなく心配。とにかく具合が悪そうなので診てもらえないか?」と相談あり。生保申請などの対応を行い、入院となった。	入院後、C型肝炎・肝硬変、肝癌(数センチの腫瘍があった)の診断がなされたが、多発肝梗塞にて急変、10/19逝去された。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診 日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
12	群馬	61	男	無職	無保険		2010.11.16	両大腿皮膚潰瘍、両大腿熱傷(Ⅲ度)	12月3日	受診により生活破綻がわかった一例。皮膚科医師より、入院を要するが経済困窮がみてとれる患者についてSW介入依頼連絡あり。知人・患者より、9月中旬仕事に火傷をおうが受診しなかった、と。患者宅は電気・ガス・水道もとめられ家賃滞納中、保険証なし、など聞く。	労災の意向が強く会社に確認してもらうことになった。翌日独歩で来院、意向確認し生保申請手続き、受理。こののち患者の言動に辻褄あわないことあり。頭部MRI実施。3日後自宅で死亡(凍死)、後日生保受給決定。神経内科医は「ヒンスワナー型白質脳症、皮質下動脈硬化性脳症だろう」という話だった。	自宅で裸で倒れていたところを知人が発見し、救急車で当院受け入れの打診あったが受け入れ困難なため他院へ運ばれた。死因は凍死。
13	東京	55	男	無職	資格書	国保↓資格書	2010.6.4	胃癌末期	9月	6/4食欲不振、体重減少を主訴に当院初診、HbA1c 8.7、6/7胃内視鏡実施、緊急入院となる。6/14、カンファレンスにて知り資格書だと判明。6/15本人に病名、予後告知、化学療法開始。同時に生保申請のため、兄が市役所窓口へ行かれた。	6/24国保滞納係へ短期証の相談に行くと、「滞納額が100万円単位を越えているので短期証はだせない。出してしまうと他の方とのバランスが悪い」と。生活苦あり2万円の保険料を支払い続けた、病気だという状況の方には短期証交付することになっているのではないかと話しても「滞納額が多すぎる。2年間滞納、そもそもこれだけ滞納したら短期証交付しても自己負担分が支払えないのでは」と担当者と言われる。6/15からは生保申請していると伝えると「あ～そのほうがいいですね」との回答だった。A区では病気であっても短期証すら発行しないのか聞くと「ケースバイケース、この方とはかく額が多すぎる」と相談にのってもらえなかった。	本人が資格書発行以降窓口相談にいったが、一括支払い以外には相談にのってもらえなかった。2009.9に資格書されて以降も保険料を払える分だけ払っていたが、保険証がなく受診できなかったと。
14	東京	32	男	無職	無保険	無保険↓生保	2010.1.26	糖尿病性ケトアシト、ーシス	2月4日	糖尿病性ケトアシトーシスで緊急入院となり10日後に死亡。入院時は無保険だった。重症の喘息のため高校を中退、定職につけずアルバイトや日雇いの繰り返しであった。2009年夏、アルバイトし多少貯えがあったようだが、10月末なんらかの事情で母親の家を出ざるを得ない状況になり(両親は本人20歳のときに離婚)、12月末までネットカフェ生活となる。いよいよ貯えもなくなり、生活保護を受けている父親のところに転がり込むことになった。そこからの緊急入院だった。	2010.1.26、14:35救急車にて当院搬送、全くの初診。主訴は2-3ヶ月前から口渇、多飲、多尿、嘔吐がひどく食べられないとのこと。糖尿病性ケトアシトーシスと診断、即入院となった。	糖尿病、脱水、ケトアシトーシス、細菌性内膜炎、敗血症ショックで10日後に死亡した。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診 日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所との かかわり	結果(帰結)
15	東京	76	男	無職	無保険	不明	2010.4.19	S状結腸癌、認知症	10月17日	病院近くの公園で路上生活を長らくしていた方。2010.4.19に公園で、具合が悪くなっているところを、ホームレスの仲間が救急車を呼び当院へ搬送。この時点で、大きな病気は見つからず、帰院できる状況となった。しかし、定期的な外来受診が必要との医師の話より、本人へ生保を利用しての通院を促すが、通院の必要性を理解してもらえず、路上での生活へ戻られる。その後、5.10に再度、路上にて具合が悪くなり、当院へ救急搬送。この時点で、大腸イレウスの状態。他院へ転院し、S状結腸癌と診断され、手術し人工肛門造設となり、その後のフォローで当院で、入院加療継続となっていたが、その後、癌が再発。	救急搬送での初診時より、継続的な医療管理を提案していたが、本人その必要性を理解してもらえず。福祉事務所への連絡に留まる状況であった。救急搬送時、入院時については、生活保護での対応を福祉事務所へ依頼した。	他病院との連携にて、S状結腸癌の手術までに至るも、結果的に、癌の再発による死亡となった。
16	神奈川	56	男	自営業	資格書	国保↓短期証↓資格書	2010.3.18	膵癌	6月16日	一人暮らしで内装の自営を営んでいたが仕事無く、保険料を滞納しており無保険。腹部に違和感があったが放置するも、我慢できない腹痛が出現したため、3/18夜間に救急車でA病院へ搬送されそのまま入院。その後、膵癌、手術適応なく余命数ヶ月(本人には告知されず)と診断される。本人と当診療所は接点がないが、離婚した妻と娘(結婚して独立)が3/26に診療所に来院して相談にのる。	本人は生活保護は乗り気でないとのことで、国保証発行を求めて市役所に同行。「特別な事情に該当するので保険証発行を」迫るも、保険年金課は「9,000円支払わないとダメ」の一点張り。結果、娘が5,000円支払うことで5月末までの短期保険証を発行してもらった。4月上旬に退院、入院費は妻の姉が立て替えたが、安心して治療を受けるためにも生活保護をすすめ、同意し申請。4月中旬に生保受給となり、療養に専念できると本人は喜んだ。	外来通院での抗癌剤治療となるが、腹痛持続し食欲もあまりないと。5月中旬に再入院。6月16日に亡くなる。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
17	神奈川	48	女	無職	短期証	短期証	2010.12.4	卵巣原発癌、肝多発転移	12月19日	24才の娘と、20年近く一緒に暮らしている男性と同居。男性とは入籍していない。マンション家賃月11万円、光熱費は同居の男性が支払っているが、家賃滞納するときあり。同居人、出来高払いで仕事内容の詳細と収入は不明。娘は声優育成の事務所に通いながら寿司屋でアルバイトをしている。収入月6-7万円。平成22年5月頃までパートをしていた。本人の父は他界、母は健在だが折り合い悪くあまり関わらない。保険料は本人と娘の収入で支払いきれないこともあった。	医療費の支払いについて心配ありと病棟看護師より介入依頼を受ける。娘に限度額認定証の申請に行ってもらいが、確定申告されておらず発行できないと。娘より勤めていた職場に給与の確認をとってもらい、手続きをすすめてもらう。本人、娘と面接、本人より「同居の男性の収入状況はわからない。支援を受けることは難しい。母も年金生活なので頼れない」といわれる。本人、娘とも貯蓄はない。娘としては、今の家を出て一人で生活していきたいとの希望あり。面接の結果、本人と娘で生保申請することとなり、役所に一報を入れる。翌日娘と一緒に生保申請に行く。	生保申請に行ったが、①同居男性がヤクザの可能性があると、②家賃・光熱費を男性に払ってもらっているため、別世帯として扱うことができず生保申請受理はできないとの連絡あり。再度役所とかけあうが、受理できないとのこと。引き続き娘に、限度額申請の手続きをすすめてもらう。生保申請にいった2日後病状悪化、本人他界。本人他界後、娘が限度額認定証の申請にいき、区分C発行となり、同居男性が医療費全額支払いにきた。
18	神奈川	59	女	無職	短期証	国保↓短期証↓資格書↓受療証↓生保	2010.4.30	肝癌	8月9日	38歳で子宮ガンと診断、子宮・方卵巣摘出手術を受けた。その後は自覚症状もなく、受診せず。95年阪神淡路大震災で被災、マンション全壊。遠い親戚をたよって当市に転居。パートでデパート販売員を約7年間したが、仕事が減り家賃が払えなくなる。その後アルバイトしながら、知人宅へ居候させてもらう。国保料の督促状来ていたが払えず、そのままにしていた。保険証も交付されなくなる。献血でB型肝炎疑い指摘されるも、保険証もお金もなく受診せず。2010年3月頃から浮腫、腹水、呼吸苦あり。がまんできなくなり、4/28保険年金窓口相談。「保険料支払わないと保険証は渡せない」といわれた。「死ぬということか」と本人が訴えると、4/28-5/15と手書きで有効期間を記した国保受療証が交付された。その後、無収入なので医療費が払えない、病院にかかりたい、と訴えると、生保担当窓口まわされたが、知人宅にいて「生保になるかわからない」といわれる。とりあえず、受療証をもって当院にいこうと担当者にいわれた。「保険証がなかったら受診できないと思い、役所と病院の敷居が高くなった」、「受療証をわたされ、絶望的になった」と語っている。	初診時、腹水でおなかはかなりふくれていて、歩くのもやっとの状況。即入院となる。そこで病院より生活保護申請。肝ガンの診断がつき、治療できるかどうかがんセンター受診するも、手の施しようがないと診断される。本人はそこまで悪いとは思っていなかったため、精神的なショックが大きかった。	その後自宅療養をへて、再入院し亡くなる。もっと早く受診していたら救えた命だと思事例だった。ご本人は在日韓国籍であり、父親を小学生で亡くし母と二人で生きてきた。母親が亡くなった後は一人でお店(スナックや喫茶店)など経営していたが、阪神大震災にあい店も家も失いA市へ転居されていた。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診 日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
19	石川	73	男	無職	無保険	社保↓無 保険	2009.8.24	食道癌	3月23日	10年ほど前、他院で糖尿病、高血圧を指摘され受診していたが、経済的理由により中断。ゲームセンターなどでアルバイト生計たてていたが、70歳くらいから年金生活(8万円/月)。生活苦しく、国保にも加入せず無保険だった。	2009.8.24市役所に本人が体調悪く受診したいと相談。市役所生活保護課につながり、当院の受診すすめ受診。食道癌にて入院となった。	2010.3.23当院にて死亡。遠方の親戚とも連絡とれたが、病院には来れないとのことで病院として対応した。
20	石川	46	男	非正規雇用	無保険	社保↓無 保険	2010.4.13	大動脈解離	4月13日	早朝5時に自ら運転して受診。昨夜から胸痛あり痛みががまんできなくなり受診。社会保険に加入していたときは大動脈解離で他院への入院経過歴もあったが、無保険になり中断していたと思われる。	初診。同居女性が当院を知っており、時間外でも診てくれるはずと受診にいった。	検査中に心肺停止し、そのまま亡くなる。大阪に家族がいることがわかり連絡をとり、当市にこられる。病気があるので心配していたが、
21	石川	67	男	無職	無保険	無保険↓生保	2010.4.14	不明	4月16日	20年前からホームレス状態。ずっと体調悪かったが受診せず。1週間前から体調悪化し救急搬送される。仲間から「お前なら生保になれる」といわれ昨年市に相談にいったが、相手にされず追い返された。「二度とあんな思いはしたくない」と息苦しい中で訴えられていたことが印象的だった。	当院のことは仲間から聞いており、何度か病院の前まで来たことがあったが入る勇気がなかったと。	入院2日目に急変しそのまま亡くなる。死後当市内に親戚がいることが判明、30年来音信不通状態だったが、ご遺体を引き取っていただいた。
22	山梨	63	男	年金	短期証	国保↓短期証	H19.11.1	肝硬変、肝癌	8月12日	H19年11月1日初診、C型慢性肝炎と診断、H20.2.1.肝癌、高血圧で通院、1~2ヶ月中断の時期もあったが外来管理となっていた。H21年1月に内縁の妻が肝硬変で亡くなり一人暮らしとなった。過去4回の入院歴あり、未収もある。7月13日腹部膨満、黄疸訴え受診、7/30咳をすると腹痛あり、腹水・胸水を認め、肺への転移が疑われ7/30入院。6月頃からつらかったと思われるが、アルバイトで働いていた。病状は厳しく主治医から告知し、最後の時間を家族関係の修復(別れた妻子と実家)と医療費の心配を解決できるよう援助。	年金月11万とアルバイトの不定期収入で生活。前年度市民税・国民保険税の滞納が17万円あり、短期保険証になっていた。又、入院費H21年分・2年分約11万円が残っている。医療費については8月から開始した無料低額診療事業を利用し、県内に身内がないので、看取りについて検討。娘さんの成人式の写真を大事にもっており、職場でも自慢していたことが分かった。	元妻と2人の娘さんが孫を連れて面会に来てくれた。また、20数年ぶりの実家との再会は、偶然もうだれもない実家に、盆の支度で帰っていた妹さんに繋がり、電話で本人とはなしてもらった。金銭管理は本人の了解のもと支援センターにも関わっていただきながら、預かった。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険推移	初診日	基礎疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
23	山梨	64	男	無職	資格書	無保険 ↓ 資格書 ↓ 短期証	2010.4.6	肺癌	7月21日	4/6呼吸苦を訴え受診、3月に入ってから右腋下にしこりが出て痛むようになった。呼吸も少ずつ困難になり、体動時呼吸苦が出るようになり食欲もない。胸部レントゲンで右胸水貯留、エコーで右乳頭右に60mmの腫瘤を認め、悪性腫瘍の疑いで入院となった。受診時無保険であった為、子供さんに保険証を持参していただいたが、保険証と持参したのが、資格証明書であったため家族に説明し、行政窓口にも連絡した。行政はH16年から滞納しており、一括返済がなければ、保険証は交付できないという。条例を提示させ、国会答弁の内容を伝え検討をお願いし、家族が窓口相談することとした。ご家族の粘りもあり、1ヶ月の短期保険証は交付された。保険証がないために、症状があったときに受診できなかったのではないかと。	新患者であり、無保険の方が入院したと医事課から連絡があり介入。土木の仕事で石を割ったりしていたが退職。特に検診を受けたことはない。保険料・年金は払っていないので無年金。生活保護も働いている三男が同居しているので難しい。医療費は分割払いすることになった。	4/6～5/21入院。ご肺癌で骨転移、化学療法をしているので1ヶ月に1階入院が必要。次回は6/4～7/5入院。2クール目を終え、在宅酸素を導入して退院。7/20呼吸苦にて外来受診、重症肺炎の診断で入院となった。翌日死亡。
24	長野	59	男	無職	無保険	協会けんぽ ↓ 国保	2010.4.23	D M ケ ト ア シ ト シ ス	5月22日	車上で意識不明になっているところを、近所の人が発見し市役所へ連絡、市の厚生課職員が救急車を呼んだ。家はあったが少し前から糖尿病の神経障害のため階段が上がりえず車上生活になっていたとのこと。2009年12月までプリント会社で働いていたが体調も良くないということで退職した。退職後国保の切り替えせず無保険となった。独居。定期預金が700万円あったが解約の方法がわからなかったと本人より。	本人の携帯電話から知人へ連絡し、県内にいるいとこの連絡先を聞いた。その後は、いところが国保加入や車・アパートの処分等全て行った。	両足壊疽あり手術。一時は意識も戻った。本人も今後は公的なサービスを受けながら生活していきたいと前向きな発言も出たが、入院から約1ヶ月で真菌性敗血症で亡くなった。
25	長野	60	女	無職	無保険	国保 ↓ 無保険 ↓ 国保	2010.1.7	高 血 圧	1月7日	3年前離婚、転居した。その時住民票の異動や国保の手続きをしないまま無保険になった。仕事無く経済的には息子に依存。息子も無保険。1ヶ月前から血液混ざった嘔吐があったが保険証なくお金もなく病院にはかかっていなかった。	2010年1月7日朝、心肺停止状態で救急搬送。意識が戻ることなくその日の昼に死亡。無保険だったので国保加入手続きを検討した。	前住所の役場から「居住確認ができなかったため、職権で住民登録消去したので対応できない」と言われた。現住所の市役所に相談し、住民登録と国保加入手続きをおこなった。入院療養費の限度額認定申請し、区分Cに認定された。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
26	長野	45	女	無職	短期証	不明	2010.2.25	慢性 肝疾患	6月	2009年失業。2/25体調不調に耐えられず当院受診。腹水たまり、まるで末期の様相だった。入院精査勧めるも強く拒否。SW介入依頼あり対応。アルコール依存症疑いもある。父は呼吸器身障1級で在宅酸素管理中(他院管理)、母は死亡、兄は48歳でアルバイト収入(月5万円程度)で精神疾患の疑いあり、夫と離婚、長男は20歳で心疾患身障1級でアルバイト収入(月5万円程度)のみ、次男18歳は建設業で月10万円程度収入あり。	生保受給の該当要件満たせず、国保44条は当市では前例なし(当院から4件申請したがすべて却下され、対市交渉中)。無低診の紹介するも紹介先に消化器科の専門いないこと「遠くてとても無理」とのことで断念。「長男の医療費も心配」とのことで本人は入院されず外来管理となる。	肝疾患の身障は4級の可能性あったがアルコールの点で申請までいかず、外来フォローで3ヶ月程度たち落ち着きを感じた矢先、急変されるも一日以上受診せず。手遅れ状態で夜間救急当番病院に搬送されお亡くなりになられた。
27	長野	58	男	非正規雇用	無保険	無保険↓国保↓生活保護	2009.8.4	下行 結腸癌	7月31日	58歳男性、出身地はA県。工業高校卒業までA県在住。高校卒業後、B県の製造業で正規雇用されるも、3ヶ月で退職。その後転々を職場を変えてきた様子。最終的には期間工として30年近く数十社転々としての状況。当県へ来たのは5年前、会社の寮を住まいとしていた。12月派遣先から体調不良あるため、休んだほうがいいのかの話あり、派遣先退職となる。その後半年近く保険証やお金がないことから在宅で療養。しかし病状は進み、派遣元の会社からすすめられ診療所受診、即日入院された。手術にあたって兄弟と連絡をとることを話したが、どうしてもやめてほしいと希望あり。連絡行わず、手術となる。家族関係は悪くないが、両親の死も知らず、任せっぱなしでいたのに自分のことまで迷惑は絶対かけたくない、と。その後精査目的で転院、手術。その後再発あり、再入院後死亡された。	転院日、所持金30円、貯金600円。診療所からの転院の際、本人・診療所職員・MSWで住民票の復活、国保加入、年金相談、高額療養費相談、即日生保申請をU市役所に行い、転院とした。住民票は復職を条件に寮におき、年金は相談したところ厚生年金番号が7つあり、市役所で対応困難とのことで後日とした。高額療養費はBランクとなる。再入院後、当市への転帰や金銭管理の住宅訪問などで関わる。結果的には亡くなってしまい、U市役所で対応していただくことになった。	手術し一度は退院したが、再発がみつきり再入院。その後亡くなってしまった。もう少し早く受診していれば結果は変わっていたかもしれない。亡くなる前に兄弟への連絡を市役所からも情報を得て行っていたが、「亡くなった時に連絡だけもらえれば・・・支援はできない」と断られた。亡くなってU市に引き取られ火葬時、お兄さんが駆けつけられ、A県へ引き取られた。
28	三重	61	女	無職	短期証(59/30)	社保↓無保険↓国保短期↓生保	2010.8.23	不明	10月7日	春から体重減少、6月から固形物食べられず8月には動けなくなった。8/23来院時歩行不可、重症のりいそう。以前はパート就労、現在無職、妹いるが絶縁状態。貯金なし所持金2,000円程度。最近の生活は知人(H氏・男性69歳、日雇い建設業で収入少なく不安定)が世話。国保もH氏が手続き、この何ヶ月か体調悪く受診勧めたが本人拒否。保険証は受診に合わせH氏が保険料一部支払い取得。生保相談行きたいと思ったが、まず民生委員に相談すべきと思っていた。市役所にいったら援護課で病院にかかってから必要であれば生保申請をといわれ国保手続きしたと。その場で手続き、A病院・B病院いったが受診拒否され、当院へ受診。	8/23夜間入院した患者の保険証が9/30までの短期国保であると病棟事務より報告あり。保険証発行日も8/23であることから受診に合わせて保険手続きを行った模様で経済的困難が予想される上、病状も深刻とのことだった。相談員が援護課へ連絡、8/23付で生保申請、8/25面談。9/2生保申請書提出、9/3入院日から生保扱いになった。	病状は大腸癌末期、緩和ケア方針になった。10/6保護費支給されるも既に本人意識なし。10/7死亡退院される。H氏、患者妹、援護課担当者とともに退院された。H氏は受診を勧めても頑なに拒否していたと言われた。生保申請を勧め、申請意思を確認したときに「病気早く治したいのでお願いします」といい安心したような表情をみせていた。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
29	京都	44	男	無職	無保険	09年退職 生保 保護再開	2010.6.30	糖尿病	7月2日	44歳男性、三交代職場でインシュリン注射ができないため退職(2009年)。治療中心の生活(近医でフォロー)、母親と同一世帯で生保受給。2010年3月行政処分(稼働年齢ということで世帯分離)の形で就労指導促され生保廃止、以降治療中断に。求職活動はされていた。お金なく治療中断、インシュリンも打てなくなり身体が弱っていき、職探しはできなくなった。当院受診5日前から経口接種不可。当日は水も受けつけなくなった。家にはクーラーもなく、母親は少しでも風が通る場所ということで、玄関近くに布団をひいて寝かせていた。	母が異変に気づき近所に駆け込み、近所の方の通報により救急車で当院搬送。搬送時、血糖値1000以上、心肺停止状態。当院初診。	搬送時には心肺停止状態、かなり重篤な状態だった。命が助かっても頭のダメージは大きいと診断。3日間集中治療したが、永眠された。入院当日無保険状態だったため、保護課に現状報告。母親と病院の申し出により、世帯に再加入、保護開始となる。
30	京都	48	男	無職	資格書	社保 資格書 国保	2010.5.12	不明	不明	実母が、息子が朝になっても起きてこないとの連絡が法人内診療にあり、看護師が見にいき、あきらかに普通ではない状態にて、同診療所より往診に行く。医師判断にて急遽当院に救急搬送となる。入院必要とのことから、当院医事課に、母・妹より保険についての具体的な相談あり。	相談時、とりあえず今すぐ区役所に行き保険証を交付してもらうまで帰らないように説明したが、すぐに行っていない。その後区役所に行くも、17:00まわっており、交付してもらえなかったが宿直の方にその旨相談し、翌日に前日にさかのぼって交付してもらうこととなる。	当院に救急搬送後、左腎癌、後腹膜下出血、白血病疑い、と診断。同日中に他院へ転院。その後死亡される(悪性リンパ腫)。
31	大阪	68	男	非正規雇用	無保険	詳細不明	2009.12.3	胆管細胞癌、肝転移	2月27日	四国より来阪、ここ10年は建設会社に住み込みで働いていた。1週間食事とれず水分も嘔吐、仕事も行けなくなり、専務につきそわれ救急外来受診。即日入院。胆管癌だった。手術適応なく外来化学療法となる。元々寮住まいだったため、自宅を確保し退院するも、土木業生活が長いこの方は社会性や自活力に乏しく、また症状の進行もあり、1週間で再入院。その後緩和ケア病棟転棟、1ヶ月後他界。	無保険だったため、入院と同時に生保申請。しかし昔の給料と思われる貯蓄が判明し退院と同時に生保廃止、国保加入。国保加入時は戸籍がなく、住民票起こしも必要で、生保ケアワーカーが四国と連携しながらの加入であった。再入院時は国保加入のまま貯蓄の残金で葬儀も行われた。	初診より3ヶ月弱で死亡。お骨は四国の兄弟に引き取られた。
32	兵庫	69	男	無職	無保険		2010.9.11	糖尿病	9月28日	10年前からホームレス生活。橋の下で倒れているのを発見され、当院に救急搬送され入院となった。入院時は意識があり、腹水、黄疸、じよくそう多発、視力障害を認めた。	入院と同時に行政に相談、その後実姉の所在が判明。SWが介入し民生保護課、行旅担当、地域担当と相談しながら対応した。	入院から3日目に意識レベル低下。主治医から実姉に状況説明され今後の治療方向性について確認した(延命治療を希望しない)。9/28病院にて死亡。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診 日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
33	兵庫	61	男	非正規雇用	無保険	無保険	2010.10.6	炎症性肺病	12月11日	17年程前から建築関係の飯場で生活をしている。収入は寮費を除くと、手元に残るのは5000円程度である。10月6日にひどい咳と、胸痛があり当院へ受診に来られる。10月18日より当院入院となる。外来・入院の医療費が心配であるとMSWへ相談あり。	入院時に生活保護課へ相談する。生活保護課と相談しながら、対応を行う。	検査の結果、癌性胸膜炎の末期と診断される。12月11日に死亡される。
34	兵庫	68	男	非正規雇用	無保険	国保↓無保険↓生保	2010.3.23	肺癌	7月8日	家族とは縁を切られており、音信不通で、頼れる身寄りなし。3年前にA市の警備会社に勤め、会社寮で生活していた。1ヶ月前より呼吸苦があり、5kgも体重減少があったが、無保険であること、医療費を支払えないことから受診はしていない。今回、熱が下がらずしんどいため、会社寮近くの当院を受診し、肺炎と診断され、入院となる。入院後、肺ガン末期と診断される。その後、当院で緩和的に治療を行い、看取りとなる。	入院と同時に、ソーシャルワーカーに介入依頼あり。本人と面談し、生活保護申請の意向があったため、A市生活保護課に連絡し、生活保護申請を行う。その後、本人の外国人登録がI市に登録されていることが判明し、A市よりI市に移管される。その後I市生活保護課と相談しながら、対応を行った。入院して一ヶ月後は病状的にも小康状態でADLも自立されており、在宅や救護施設等、今後の生活の場所について相談していた。	一ヶ月後は食欲低下、ADL低下が起り、疼痛も増悪したため、退院は困難で当院看取り方向となる。本人の身寄りは見つからず、治療の方針については、本人に確認しながら行った。入院後4ヶ月弱で亡くなられる。
35	兵庫	63	男	非正規雇用	無保険	無保険↓生保	2009.12.28	低栄養	3月20日	2009年12/28 夜間診に姉と共に来院。受付で「首に管が付いていて外して欲しい」近医にいったら「無理」と言われ当院を紹介されてきたとの事。(中心静脈カテーテルが入ったままの状態であった)MSWに連絡が入り事務長と面談をおこない詳細を確認。12/10A市の路上で倒れA病院へ救急搬送となり入院。医療費の心配もあり12/19無断離院され姉を頼り当院のあるB市に来て姉宅で生活していたが、正月で医療機関が休みになり首に管が刺さったままで何かあってはと姉が心配し受診。来院時は無保険だったため保険証の発行手続きや生活保護の申請などを年明けに行う事を確認し処置を行った。	12/28来院時は無保険だったため保険証の発行手続きや生活保護の申請などを年明けに行う事を確認し処置を行った。併せて採血検査を行い年明けに受診誘導となった。年明けにMSWより保護課へ通報。また、A病院へ連絡し状況確認したが、同一名の患者が該当せず。しかし本人からの経過を伝えたところ名前が違うが内容に該当する方がおり行路人として通報され12/19自己退院で処理されている事が分かった。(仕事場で偽名を使い働いていたためA病院では本名を言っていなかった)。その後、検査やA病院からの情報提供を受け胆のうがんと診断。	保険証の作成に入ろうとしたが、結婚歴があり妻より死亡届が出されていた為保険証の作成が出来ない事が判明。生保も姉宅にいる事で世帯として対象とならず戸籍取り消し手続きを行なった。その後、入院による保護が可能となり入院。3/20死亡退院となった。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
36	島根	67	男	無職	短期証	短期証→正規保険	2010.1.5	進行性胃癌	1月27日	市内で独居、無収入であったが妹らが生活費の支援を行い、何とか維持しておられた。若い頃には会社に勤めておられたとのことだが、その他詳細不明。前年10月～11月頃から倦怠感著しく、ひげもされない、食事もとれず、胸のつかえ感あり。	当院併設の診療所にて内科初診。著しい脱水と心穿部に巨大腫瘤あり。CT検査にて多発性肝転移、多量の胸水、腹水を認めた。即日入院となり、持続点滴などの治療を開始。入院5日目に妹さんたちが相談室に来室、入院医療費に関わる相談を受けた。	相談室からは国保保険料納入による「限度額適用認定」手続きと生活保護制度について、説明・案内をおこなったが、家族は結果として前者の手続きを選択された。ご本人はその後全身衰弱が進み、呼吸不全の状態となられ死亡された。
37	福岡	69	男	非正規雇用	資格書	社保↓資格書	2010.6.3	食道癌	11月3日	建築関係の仕事。大手でも行っていたようで東南アジア圏内、全国仕事をしていた。昨年春頃から食事が食べられない、吐く、など症状があったが受診せず。サウナで寝泊まりしていた。久しぶりに街であった仕事仲間が、激やせに驚き団体の生活相談所に相談、当院へ受診のはこびとなる。	退職後国保加入せず、病院にかからずにいた。当院受診し、食道の腫瘍が大きく、固形物が喉を通らなかったことがわかる。受診後そのまま入院。	入院後、絶食、点滴のみ。経口接種ほとんどできず、化学療法おこなうが、手術できず。11/3亡くなる1週間前までADL自立し会話できていたが、約5ヶ月間飲食できなかった。子どももいたが連絡つかず、亡くなる前に兄の連絡先を本人から聞き、主治医が病状を伝えた。
38	宮崎	61	男	無職	無保険	社保↓無保険と推測	2002.4	糖尿病	12月9日	2008年10月30日を最後に中断の患者。2010年12月に警察より変死の照会で死亡の事実を知った。2009年2月に当院に来ていたが、それ以降無保険であったと思われる。2009年2月分請求レセプトが返戻され、無保険と判明。法人内病院に15年以上前から通院。病院移転後、後施設である当院で診療を継続していた。仕事(長距離トラック運転手)のためか、不定期受診で主治医も定まらない状態だったが、以前の主治医が所長となつてからは遅れる事もあったが2006年6月までは定期的に受診されていた。医師体制の都合で午後の診療が出来なくなった同年7月以降受診時間の都合で病院の受診もあったようだが次第に不定期受診になり、2008年3月に低血糖発作で病院に救急搬送されて以降2～3ヶ月おきの受診となり2008年10月を最後に中断。	中断フォローで電話を幾度となくするも本人との対話は出来ず、手紙を郵送するも反応なし、当院から20キロ近く離れた遠方であったため訪問には至っていなかった。当日はお昼近くまで家族と会話、家族が不在中に死亡された模様。めっきり体調が悪くなっていたため、家族も心配し国保を取得して保険証を発行してもらい受診に行くよう話をしていた矢先の事だったとの事。	後日、家族から連絡があり「廃棄困難の注射器や針がある」とのこと。ダンボール3箱分大量の注射器やセンサーなどが未使用のまま(15年前のものから)残されていた。インシュリンは破棄していたようだが、10年以上100万円以上の管理料を支払い続けながら一切使用しなかった背景は何があったのか、医師や看護師に言い出しにくい雰囲気があったのか、サインに気付く事が出来なかった事が悔やまれる。
39	沖縄	59	男	無職	無保険	国保↓協会けんぽ→生保	2009.10.17	突発性間質性肺炎	4月20日	妻子とは別居状態で車上生活をしていた。体調思わしくない中、アルバイトの仕事が決まった矢先の呼吸苦となる入院となった。	救急搬送後、MSW介入。生保検討したが妻子の収入あり、すぐの申請困難。特定疾患の申請を行った。家族の直接的な関わりは困難とのことで、退院先をNPO法人の施設へと設定となり、退院後自身で生保申請される。	退院後、呼吸苦で何度か入退院を繰り返していく中で、入院中急変され死亡他院。

No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険 推移	初診 日	基礎 疾患	死亡日	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)
40	沖縄	81	女	ホームレス	無保険	無保険↓生保	2010.5.4	多発性胃潰瘍穿孔	9月26日	当市の繁華街の路上でうずくまっているところを警察官からの通報で救急搬送された。身元不明のまま緊急手術、胃全摘。快復後はリハビリ目的で、法人内他病院へ転院した。	入院時から生保申請し受理された。本人の知的障害があるためか、氏名や出身地、係累など一切判明しないまま介護施設への入所を保護課から調整してもらった。	施設入院後、「低血糖」で意識低下の状態があり3回目の入院で敗血症のため亡くなった。
41	沖縄	61	男	ホームレス	無保険	無保険↓生保	2010.10.31	重症貧血、直腸癌	12月14日	10/31パチンコ店のトイレ内で立てなくなり、救急車搬送され入院された。ホームレスとして当市の保護課へ生保申請し受理された。	当院には受診歴なし。来院されたときから亡くなるまで意識状態が悪く本人から聞いたのは氏名のみだった。	亡くなられたあとも遺体の引き取り人がなく、行旅病人として市内に埋葬された。氏名から本土出身の方と思われるが不明。
42	沖縄	72	男	無職	無保険	無保険↓短期証	2010.3.27	上行結腸癌、移行性肝癌	8月3日	5, 6年前から黒色便あるも受診していない。腹痛をきっかけに当院受診、診断後手術目的のため転院。手術後当院にもども、帰る先が決まらず長期入院が続き、病状悪化、死亡退院となる。	ホームレス状態であったが居住設定し(住民票上)、保険証発行、10年近く疎遠の内縁の妻、息子と連絡がとれるが、かかわり拒否。何度も話し合い、家族の協力を得られるようになるが、本人のキャラクターもありうまく進まない。	4ヶ月の入院生活を経て、死亡退院となる。